株式会社 日本食糧新聞社
日本食糧新聞　平成二十八年九月十六日　二面
記事掲載承認番号：H28SEP2001

JFEシステムズ／メルクネット導入事例 ⑤

池田糖化工業
大幅に作成時間短縮

池田糖化工業は調味素材や魚介・畜肉素材などあらゆる食品向けの加工用中間原料を提供しており、取引先に対して原料規格書を含む書類を月に1000件以上提出することもある。

原料規格書は時代の変化に伴う内容改定を知るツールで、継続的に見直す必要があるが、1社単独の規格書では将来的な不安があり、JFEシステムズのメルクリウスネット（メルクネット）の規格書を採用した。

大手食品企業が知恵を持ち寄り検討した書式で、同社既存書式と比較しても同じような内容だった。主要食品企業が100社以上参加、3000社以上が規格書をWebでやりとりするまでに成長している。ユーザーごとに違う書式や規格項目が共通化され、同社も規格書作成時間が大幅に短縮され、迅速な少量多品種生産に寄与しつつある。

同社がメルクネットを導入したのは2013年4月で、先行して11年1月にはJFEの配合食品マネジメント「キューベル」の運用を始めた。自社オリジナルのデータベース（DB）を構築し、各種情報を管理・運用してきたが、①開発効率向上②表示ミスを起こさない安全確保③製品情報の開示までの書類作成効率の向上――を目的に新たにキューベルを採用し、表示作成などで一定の範囲内で自動化が実現し、社内ルールの整備も行った。

キューベルは製品情報DB構築の第一歩で、「情報の源である原料規格書を整備し、開発部門が正確な情報で迅速に、安全な製品を開発し、顧客満足を高め、取引の拡大や継続的な利益増につながる」（同社筋）と考えた。メルクネットは規格書整備に大きく寄与する。

メリットが多い

表示に関しては、既導入のキューベルとの連携で、非熟練者でも、比較的早く提出用規格書が作成できるようになった。メルクネットでの規格書の依頼・提出・再依頼・承認は、必要な作業が明確でムダが少なくメール対応とは比べものにならないほど作業が軽減できた。新規依頼時も、手続きが簡単だ。メルクネットの規格書はExcelで作れ、作業がしやすく、提出時に誤りがあるとエラーで教えてくれ修正依頼も減った、などメリットは多い。

（写真左から）池田糖化工業の品質管理室マネージャー・三嶋香苗氏、ITS室ユニット長・樋口史晃氏、広報部執行役員部長・掛谷和弘氏、品質保証部マネージャー・能宗恭市氏、同・北村達夫氏、品質管理室係長・藤田三枝子氏

共通書式へ変更

従来は異なる書式で運用し、規格書対応が煩雑だった。業界標準の書式を狙うメルクネットは、原料規格書を継続的に取得する際、運用し続けることで規格書管理を構築でき「規格書入手の手間も省ける」と考えた。集める原材料規格書と提出する製品規格書の書式が同じなら、書類作成や管理面でのメリットは大きい。中間原材料メーカーの特徴として仕入れ原料も納入製品も数が多く、種類も多岐にわたる。原料仕入れも製品納入も、規格書は必須で、その作業量は膨大。「原料も製品も同じ一つの形式で、食品業界を横断した統一書式となることは、とても魅力的」に思えた。メルクネット採用で、食品業界を横断した統一書式になり、理論的に格段の効率化が図れた。

導入当初は取引先に使い方を理解してもらうためかなりの労力も要した。認知が進み、日ごとに業界に浸透している。その証拠に提出方法や規格書の内容についての問い合わせは激減した。メルクネットの問い合わせ窓口となっているJFEのヘルプデスクにも大いに助けられている。

「メールだと最新版が分かりにくいが、メルクネットでは規格書の依頼状況や依頼者情報が一元化でき、重複した依頼も防げる。社内の情報共有が図れ、規格書の版管理の問題も解消された」という。

想定外の効果としては、依頼状況が明確になり、社内運用に問題があることが明らかになり、原料規格書更新頻度や手順など、検討のきっかけにもつながっている。（江端哲也）